

・はじめに

1 月分の報告をさせていただきます。

・履修科目

今学期の授業について報告します。

1. KIN104 Skating Activities

週に2回アイススケート場に赴いて、スケートに関する技術を学びます。スケート靴はスケート場で借りることができますが、約3分の1の生徒は自前のスケート靴を持ってきます。理由は様々ですが、借り靴はコンディションのばらつきが激しいため氷上でのパフォーマンスのバランスのばらつきが大きくなりやすいため、元々趣味でスケートに取り組んでおり自分のものを既に持っていたから、など理由は様々です。授業ではまず片足だけで滑る練習から始まります。この理由は、この片足だけでのという行為は 今後に学ぶ回転やクロスといった技術において右足から左足、その逆に体重移動をかけるときにどうしても片足だけで姿勢制御をしなくてはスムーズにこれらを行うことができないため、上達において必須の技術となっているからです。その次に、両足のインサイドエッジのみを使用して氷を蹴って前に進む練習に取り組みます。これらの練習意図は氷を少しでも強く蹴る感覚を養うために行っており、これらの技術は速いスピードで走ることやバックで滑るといった技術に繋がってきます。週2回の授業時間の内訳として、この「片足での姿勢制御、氷を強く蹴る方法」に関する派生練習に大幅な時間を割きます。そして最後の20分ほどは簡単なゲームを行ったり、さらに発展的な技術を学んだりしています。

氷上以外では週に一度、Web テストに取り組みます。それらの問題の出題範囲は、授業内で学んだこと他に、アメリカ合衆国のスケート連盟が定めているフィギアスケートのルールや、スケート靴の構造など多岐に渡ります。一応クイズは4択なのである程度当たりをつけて回答することができますし、毎週クイズと一緒にどの範囲が出題範囲になっているのか参考資料もアップロードされているので、回答が全く分からないということはありません。

また他の授業と異なりスケートリンク場の都合により3月一杯までで授業は終了します。この授業は非常に人気が高く、履修登録をするのが非常に難しいことで学生内では有名です。学部4年生から順に登録作業を行うことができるイリノイ大学の履修登録システムにおいて、1年生である留学生の我々が履修登録を行えたことは奇跡に近いです。

2. MUS250 Illini Strings

受講者全員でオーケストラを組んで、4~5曲の練習をする授業です。週に1回全体練習の日があります。イリノイ大学にはオーケストラのクラスが3~4つ存在しており、今回のクラスは音楽専攻以外の生徒を中心に構成されているものです。基本的に指揮を担当する講師が指導を行います。時々音楽専攻の学生が指導を行う日もあります。授業内では主に各楽曲の重要箇所における演奏クオリティの評価はもちろん、指揮者の曲についての解釈を受講者全員に伝えることに大幅の時間を使います。基本的に演奏のクオリティを上げることに個人の日々の練習にすべてゆだねられており、パートごとに分かれて不得意の箇所を練習するといったこと殆どありません。また定期的に指揮者が各個人1人1人を個室に呼びつけて曲が指定した指示通りにきちんと弾けているか(いわゆる抜き打ちテスト)といったことも行われます。

授業時間に関しては1回あたり2時間30分であり他の授業に比べて長いです。また時間帯も受講者と空き教室の関係上19時スタートと非常に遅いことも特徴です。9割以上の受講生は自身の楽器を所持しているため授業ではそれを使用しますが、所持していない学生は楽器を無料でレンタルすることもできます。

3. HIST227 Modern Japanese History

日本の近代史について学ぶ授業です。本授業では日本史における江戸時代~明治維新までの範囲を取り扱います。現在の授業内容に関して記すと、安土・桃山時代末期における豊臣秀吉の挑戦遠征とその理由、秀吉死後の大名たちの思惑、関ヶ原の戦い、また関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康

が江戸幕府を開き、どのような方向性で政治を行ったかについて学んでいます。基本的に授業は講義形式で進みますが、生徒からの質問やあらかじめ講師が用意した質問内容などでディスカッション形式の授業へと変更することもあります。そういったときに、生徒の名前が分からないと少しばかり不便なので白い紙に名前を記載したものをそれぞれの生徒の前に置かれています。

また数週間に一回、小テストを行う日も存在します。出題範囲は、その週までに習った歴史のことや、史実を学ぶ上で頻出する日本地理に関するものなど多岐にわたります。授業の最後にはネット上に復習プリントがアップロードされ、その日のキーワードが羅列してあったり（つまりその用語の意味が分からなければ調べておきなさいという意味）、10～20の質問項目が記載されている（テスト等で聞かれる可能性が高かったり、今後の史実を学ぶ上で必要な時代考証に関するもの）といった内容になっています。これらのプリントを基にその日の授業の復習と次回の授業の準備を各学生は行っています。